

# 赤米ニュース

## 第302号

(2022年5月31日)



## 東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 5月の赤米作り-----                     | 2 |
| おしらせ-----                        | 4 |
| おたより-----                        | 4 |
| 『赤米ニュース』第300号記念報告：赤米の利活用（Ⅲ）----- | 6 |
| 表紙解説：国分寺市の年中行事⑤一本村八幡神社の祭礼-----   | 8 |

[2022 年版赤米栽培マニュアル]

## 5月の赤米作り

### ●5月の赤米作りのポイント

風薫る5月の季節を迎えました。赤米作りも、いよいよ本格的なスタートとなります。みなさん、準備はよろしいですか？。今年もおおいに頑張って、たくさんの収穫をあげましょう！。5月の赤米作りのポイントは、一言でいえばバケツ栽培の準備とそこへの種まき、そして発芽後の早苗の育成ということに尽きるでしょう。これさえ済ませてしまえば、もうあとはほとんど何もやることはありませんので、楽なものです。4月中に、ある程度の準備を済ませておけば、作業もぐっと楽になったはずです。

本マニュアルでの赤米のバケツ栽培の場合、種粃の直播き方式のやり方を取りますので、田植えということをやりません。その分、作業も楽ですので、初心者でも子供でも誰でも、簡単に赤米稲を育てることができると思います。水田を用いて本格的に稲作をやってみたいと思われる方々は、ぜひ農家の方々にアドバイスを仰いでいただきたいと思います。それではみなさん、さっそくやってみることにしましょう。

### ●種粃の用意

まずは種まきの準備から始めましょう。昨年に収穫して保存しておいた、もしくは今春新たに当会から届けられた、赤米の種粃の袋を開けてみて下さい。じっくりご覧になると、おわかりのように、赤米というのは実に風変わりなお米です。通常の稲の粃のように、それは黄色い色ではなく、くすんだ濃い赤褐色

をしています。また、粃の先端から何センチもの長さの、針のような毛が一本生えていることも変わっています。この毛のことを「芒（ノギ・ノゲ）」といいます。これらは古代米としての赤米の、大きな特徴なのです。いかにも原始的で野性的なその姿に、まずは注目してみてください（写真3）。

種まきに用いる種粃は、できるだけ新しいものを用いましょう。何年間も保存しておいた古い種粃でも、芽を出さないことはありますが、発芽率はぐっと落ちます。全然、芽を出さないこともよくあります。去年、収穫したものをを使うのが、一番よいのです。長い芒が邪魔で、互いにかからまりあって、うまく種まきができない時は、芒をハサミで切り落



写真3 赤米稲の種子



写真4 発芽した赤米稲

としてしまうとよいでしょう。一粒ずつ芒を切り落とすのは、なかなか面倒な作業ですが、バケツ栽培であれば量も少ないので、大した手間ではありません。芒を取り除くと、実にスムーズに種まきをすることができます。

### ●バケツの用意

次にバケツもしくはプランターを用意します。もちろん、バケツでなくとも、発泡スチロール箱や水槽など、何の容器でもかまいませんが、そこに土と肥料とを入れ、春のうちに一度耕しておくということは、すでに前回述べておきました。なお、肥料について、もう少し補足説明しておきましょう。赤米稲の場合、無施肥でもよく育ちますが、あえて肥料を与えて多くの収穫をあげようとする場合には、堆肥を用いるのがよいでしょう。ご自分で堆肥を作る場合、前年の秋に、山とか公園とかで落ち葉をかき集めてきて庭に積み上げておき、よく腐らせて堆肥を作っておくとよいのですが、市販の堆肥でももちろん結構です。容器の底の方に油粕を少し入れておいても効果的です。肥料はごく少量でよく、通常稲のように肥料漬けにははいけません。

こうして準備のできたバケツには、たっぷりと水をまいておきますが、前回説明しておいた通り、ジョウロでそっと水を注ぎます。そして、ここがポイントですが、田植え前の水田の苗代とは異なり、直播きをおこなうバケツ栽培の場合、基本的に「湿った畑」状態を維持し、水をガブガブに満たしてはいけません。この点については十分注意が必要です。したがって、種粃は水中ではなく土の中にまかれる形になるわけです。水が多すぎると、まかれた種が浮いて流されてしまい、きれいに株をそろえることができません。

### ●バケツへの種まき

こうしていよいよ種まきとなりますが、東京地方を例にとれば、4月下旬～5月上旬頃が種まきの適期となります。その時期までにバケツの準備を整えておいて下さい。多くの会員のみなさんは、ゴールデンウィークの頃を種まきの目安にしています。連休中のお暇な時を選んで、やってみてはいかがでしょうか。

それではさっそく種をまいてみましょう。湿ったバケツ内の土の上に、指先を1cmくらい押し込んで等間隔に穴をあけていき、その穴の中にひとつまみ5～6粒の赤米の種子を入れていきます(図2)。プランターの場合、穴の列を一直線に並べていくと、後できれいに苗が揃います。まいた種粃の上には土を少しかぶせて穴を埋め、上を指で軽く押さえて安定させます。次に、たっぷりとジョウロで散水しますが、まかれた水によって土が流れ、種粃が地表に露出するようではいけません。あくまでも「湿った畑」状態を維持して下さい。以後は散水を毎日続け、土の表面がかわいてしまうことがなく、つねに十分な湿気が土中に維持されるように気をつけて下さい。

種まきの終わったバケツは、日当たりのよい所に置いておきますが、それは土の保温のためであって、種粃に日光をあてるためではありません。バケツ内の地表面には、しばらくの間はあまり強い陽射しを当てない方がよく、バケツやプランターの上に段ボールなどをかぶせ、覆っておいてやりますと、日光をさえぎることができ、水分の蒸発を防いで、種粃の発芽を促進します。種粃は暗い所の方がよく発芽しますし、発芽直後の芽は実は強い陽射しが苦手なのです。さらにこの時期、スズメがよくやってきて、種粃をほじくり返

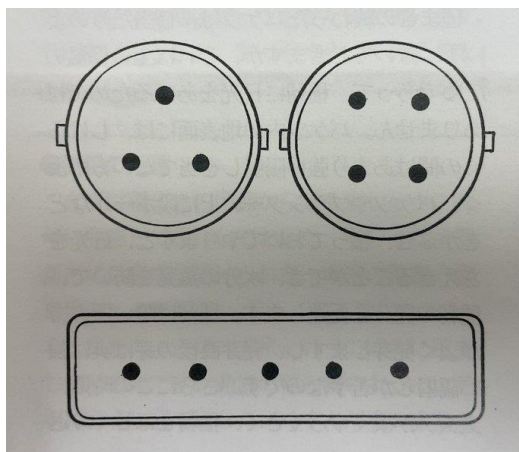
し、食べられてしまうこともありますので、十分気をつけて下さい。

こうして発芽した苗がどんどん成長し、茎葉が青々としてきましたら、もう段ボールで覆わなくてもよいので、それをはずし、十分に直射日光を浴びさせてやりましょう。この段階になりましたら、もうこまめな散水は不必要で、ミニ田んぼにはひたひたになるぐらいまで水を入れて下さい。もちろん苗が水没するほどの水位ではいけません。苗がどんどん伸び出して、高さ2～3cmほどになりましたら、さらに水の量を増やし、ここで初めて土の表面が完全に水没しますが、水深はわずか0.5～1.0cmぐらいが適切です。苗の草丈が5cmほどに達した時点での水深は1～2cmとし、しばらくの間その状態をキープしていきます(写真4)。

さあ、5月の赤米作りの作業はここまでで

#### 図2 種のまき方の例

(上左図はバケツの3ヶ所まき、上右図はバケツの4ヶ所まき。下図はプランターを用いた場合で、いずれも上から見たところ。●の位置に5～6粒ずつ種子をまき、それぞれが1株となる)



す。5月はいろいろな作業が続き、少し大変でしたけれども、これ以降は作業もぐっと楽になります。あまり手を抜くことなく、ぜひ頑張ってみて下さい。何かわからない点がありましたら、遠慮なく事務局までお問い合わせ下さい。

## おしらせ

### ●水彩連盟展に赤米の絵画を出品

東京都国分寺市在住の画家、高橋寿子さんが、今年も水彩連盟展に赤米稲を描いた作品を出品されました。この展示会は水彩連盟の主催による第81回水彩連盟展で、六本木の新国立美術館の3階展示室3A・3Bを会場に本年4月6日(水)～18日(月)に開催されました。高橋さんの作品は「実りの喜び」と題され、たわわに稔った赤米稲や花々、果実などが、幻想的なタッチで描かれております。高橋さんの許可を得ましたので、次頁にそれを掲載させていただきました。

## おたより

### ●今年は種子島種を(高橋寿子)

やっと春めいて参りました。待ちに待った種粃配布のお知らせを拝受致しました。今年は種子島種赤米を作りたいと思いますので、その種粃をお送り下さい。『赤米ニュース』第300号は、長沢先生の赤米に対する強い愛情を感じて、拝読しました。赤米を知って以来、毎春の水彩連盟展出品の作品のテーマは、赤米抜きには制作出来なくなっています。今年は「実りの喜び」という題で、赤米稲穂を主



高橋寿子さんの今年の水彩画作品、「実りの喜び」です（国立新美術館にて）。



題に制作中です（3/9：東京都国分寺市）。

#### ●武蔵国分寺種を（龍神瑞穂）

本年も国分寺赤米会、よろしくお願い申し上げます。またバケツ栽培も継続したいと思いますので、種粳（武蔵国分寺種）お分けいただきたく、よろしくお願い申し上げます（3/19：東京都国分寺市）。

#### ●種粳をありがとうございました（龍神瑞穂）

姿見の池の桜も今日、満開となりました。種粳をお送り下さり、ありがとうございました。今年もバケツ稲、挑戦したいと思います。それにしても、赤米栽培の拡がり、ご同慶の至りです。史跡農地も四年目になります。

今年もご指導のほど、よろしくお願いいたします（3/28：東京都国分寺市）。

#### ●富山でも赤米栽培を（米村 創）

こちらに赴任してから、早くも3年目の春を迎えております。仕事がなかなかきつくて、あまり余裕はないのですが、今年はこちらでも赤米栽培をやってみようと思っています。「武蔵国分寺種」赤米稲を、職場でプランター栽培する予定です。江戸時代の富山県下は、著名な赤米の産地でもありました（4/6：富山県滑川市）。

#### ●「実りの喜び」（高橋寿子）

水彩連盟展にお越し下さいまして、有難う

ございました。今年の作品は「実りの喜び」と題し、見て下さった人々に温かいひとときをと、暖色を多く使いました。古代米の稲穂は赤で表現し、収穫の際の私の気持ちこめました。最近知ったのですが、談山寺の祭の時に芒を使ったお飾り、古代米米粒を使ったお飾りをお供えするそうで、何と素晴らしいことでしょう。一度見てみたいと思いました。今年も古代米の種まきが間もなく始まります。御指導よろしくお願ひ申し上げます (4/18: 東京都分寺市)。

### 『赤米ニュース』第300号記念報告

## 赤米の利活用(Ⅲ)

長沢 利明

### (2) 公共施設での展示栽培・つづき

国分寺市生まれの古代稲である「武蔵国分寺種」赤米稲をこそ、ぜひ万葉植物園に植えていただきたいもので、私は以前からそうに訴え続けてきたのです[長沢, 1997b: p. 48]。

### (3) 自宅でのバケツ栽培の普及

赤米稲の利活用法として次に重要なのは、一般市民による自宅での趣味的な栽培体験です。農業にまったく縁のない非農家の一市民が、水田も畑も使わずに、自宅で簡単に稲作体験ができるという意味で、バケツ・プランター栽培はすぐれた園芸法といえますし、今では広く日本中でおこなわれるようになりました。特にむずかしい技術を要するわけでもなく、子供でも簡単にでき、ひとつの趣味としてそれを楽しめますので、多くの人々にぜひ一度やってみていただきたいと、私はつねづね考えておりますし、そもそも私ども東京

赤米研究会は、この稲のバケツ栽培というものを広く普及させていこうという目的をもって発足しました。

いうまでもなく、自分の手で稲を育ててみるというのは素晴らしい体験ですし、自分でやってみてこそ、お米のありがたさや農家の方々のご苦勞を、少しでも知ることができるはずです。そして、そうした体験を通じて、日本人にとっての主食穀物である米というものをもっともっと身近に感じ、稲とともに生きてきた日本人の歴史と文化というものに想いをはせていただきたいものだと、私は思っています。また、それほど大げさに考えなくても、生き物を育てることは、人にやさしい心をもたらししてくれるもので、命の大切さも実感でき、癒し体験にもなることでしょう。ですから、できることであればお子さんたちと一緒にそれをやってもらいたいもので、子供たちの情操教育にもそれは役立ち、人間らしいやさしい心を持って生きていくことを、きっと教えてくれることでしょう。お子さんたちにとって、必ず有意義な経験になると思います。

都市部で暮らす一般市民が、廃品のバケツや桶・樽などを用い、自宅の庭などで稲を育



写真5 赤米のバケツ栽培

ててみるというところみは、第二次大戦後に全国各地でおこなわれるようになったのですが、当時は誰しもが、自己流で試行錯誤をしながらやっていたようで、ずいぶん失敗もあり、大した収量ものぞめなかったといえます。あくまでもそれは趣味でやっていることで、米の自給が目的ではなかったのですから、それはそれでよかったのです。けれども、できることであれば、一定程度の収穫をあげたいもので、茶碗一杯分とはいえ、自分で育てた稲から米を収穫し、ご飯に炊いて食べてみるのができたなら、誰しもが感動することでしょう。

プロセスだけを楽しむのもよいけれども、結果もまた大切なのですから、せつかく自宅で稲を育てるのであれば、食べられるほどの量の収穫をもぜひめざすべきだと、私は思っております。ですから、これからのバケツ栽培は、極力きちんとしたやり方にもとづいて、多くの収穫が得られるように、なされていくべきでしょう。

さいわいにして1980年代以降、関西在住の園芸家・愛好家たちが努力を重ねた結果、効率的なバケツ栽培法の技術がしだいに確立されていくこととなり、三重県の竹内幸生氏による「バケツ稲作法」・「稲鉢栽培法」などがまとめられ[長沢, 1998: pp. 138-141]、全国各地で広く取り入れられていくようになりました。さらに、2007年には全国農協中央会などでも稲のバケツ栽培の普及に力を入れるようになって、種粃・肥料・栽培マニュアル・観察ノートなどをセットにした子供向けのパックを、希望者に配布するようになったのです。

こうした動きは、もちろん歓迎すべきことに違いありませんが、せつかく稲をバケツで栽培するのであれば、通常稲もよいけれども、

その遠い先祖にあたる古代稲を育てた方が感動も大きいことでしょうし、教育効果も高いのではないだろうか、私たちは考えたのです。そこで赤米稲のバケツ栽培法を一生懸命に研究し、何年もかけて実験を繰り返しつつ、時には失敗を重ねながら、私たちは試行錯誤を続けてきました。移植法を廃止して直播き法に一本化したことなどは、大きな冒険だったのですが、そのおかげで誰でも簡単にベランダや屋上でのバケツ栽培ができるようになったのです。

そして、ちょうどその頃、京都府の芦田行雄氏が竹内幸生氏によるバケツ栽培法にさらに改良をくわえて、その赤米版の栽培マニュアルを考案されるに至り、ついに「赤米バケツ栽培法」がまとめられることになったのです[芦田, 1998: pp. 85-86]。東京赤米研究会の「赤米栽培マニュアル」は、私たちの長年の実験の成果の上に、これら先人たちの手で確立されてきた技術を取り入れながら、少しずつ整えられてきたもので、会報の『赤米ニュース』を通じ、今でも広く一般に公開されております。

そのようにして今では、赤米のバケツ栽培のやり方が、完全にマニュアル化されるようになり、誰でも失敗せずに、自宅での古代米栽培ができるようになりました。いっさいの品種改良がなされずに、現代まで伝えられてきた大昔の貴重な稲種が、自宅で簡単に育てられるようになったのですから、それはとても大きな進歩です。その結果、古代稲というものがぐっと身近な存在となり、誰でも生きた本物の赤米稲の成長過程を、自宅で観察できるようになったのです。

秋になってバケツの中の赤米稲の苗から、待ちに待った花茎が伸び始め、その先端から

表2 赤米稲を栽培中のおもな小・中学校

| 学校名           | 所在地                 | 年次    | 品種名      |
|---------------|---------------------|-------|----------|
| 習志野市立谷津小学校    | 千葉県習志野市谷津 5-1-32    | 2000～ | ベニロマン    |
| 川島町立川島中学校     | 埼玉県比企郡川島町白井沼 230    | 2000～ | 総社       |
| 渋谷区立広尾中学校     | 東京都渋谷区東 4-13-25     | 2000～ | 総社       |
| 板橋区立稲荷台小学校    | 〃 足立区稲荷台 23-1       | 2000～ | 総社       |
| 〃 赤塚小学校       | 〃 板橋区赤塚 3-1-22      | 2000～ | 総社       |
| 明治大学附属中野中学校   | 〃 中野区東中野 3-3-4      | 2004～ | 総社       |
| 成蹊中学校         | 〃 武蔵野市吉祥寺北町 3-10-13 | 1998～ | 総社       |
| 国分寺市立第二小学校    | 〃 国分寺市光町 3-1        | 2017～ | 武蔵国分寺    |
| 〃 第四小学校       | 〃 〃 西元町 1-8-1       | 2019～ | 武蔵国分寺    |
| 〃 第五小学校       | 〃 〃 日吉町 1-30-5      | 2020～ | 武蔵国分寺    |
| 〃 第九小学校       | 〃 〃 西恋ヶ窪 4-12-6     | 2021～ | 武蔵国分寺    |
| 早稲田実業高校小学部    | 〃 〃 本町 1-2-1        | 2016～ | 武蔵国分寺    |
| 東久留米市立第二小学校   | 〃 東久留米市新川町 1-14-6   | 2004～ | 総社       |
| 瑞穂町立小学校       | 〃 西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎 2287  | 1998～ | 総社       |
| 京都文教短期大学附属小学校 | 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町 50  | 1988～ | 総社・種子島・他 |
| 尼崎市立立花中学校     | 兵庫県尼崎市栗山町 2-26-1    | 1988～ | 総社・種子島・他 |
| 養父市立八鹿小学校     | 〃 養父市八鹿町 1045-4     | 1990～ | 不明       |

開花がスタートし、あざやかな深紅の稲穂が垂れ下がった時、今までのすべての苦勞が報われることでしょう。縄文～弥生時代に生きた私たちの先祖が眺めたであろう同じ稲穂を、今私たちが見つめているのだと思うと、言いあらわせないほどの感動が呼びさまされます。お子さんたちには、「邪馬台国の卑弥呼さんも、この稲を見ていたんだよ」と教えてやって下さい。赤米稲のバケツ栽培体験は、たくさんの喜びと感激とを私たちに与え、遠い古代へのロマンを誘うひとときをもたらしてくれるのです。

#### (4) 小中学校での栽培学習

赤米栽培の持つ、そのような高い利活用価値を、教育現場にも活かしていったらばど

うなるでしょうか。さらに多くの成果がそこに生み出されていくことになるでしょうし、それを生かさぬ手はありません。（つづく）

#### 〔表紙解説〕 国分寺市の年中行事⑤—本村八幡神社の祭礼—

旧国分寺村本村の鎮守の神は八幡神社で、毎年5月にその例大祭が挙行される。祭りのハイライトは神輿と山車の渡御で、長い巡行行列が氏子地域内をめぐり歩く。ここ2～3年はコロナ禍で祭りも縮小されてきているけれども、今年こそは例年通りにやってもらいたいもので、多くの市民がそう願っている。祭りの最大の見ものは巨大で華麗な祭礼山車で、多摩地域最大の規模を誇っている。おそらくは東京都内でも最大とあってよく、特にその彫刻装飾は見事なもので、一見の価値がある。